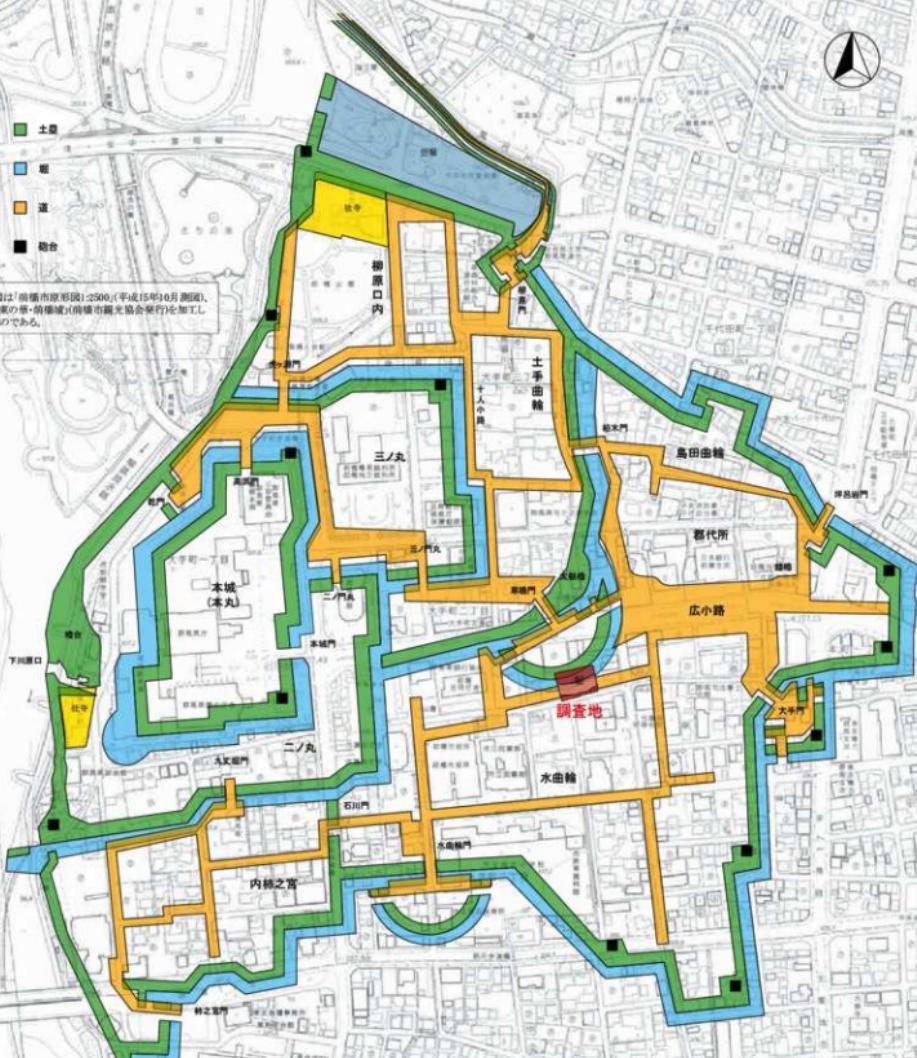


前橋城

車橋門丸馬出遺構の調査



本図は「前橋市城郭図1:2500(平成15年10月調査)」「面・裏の里・前橋城(前橋市歴史文化協会発行)」を加工したものである。

2008.06

前橋市教育委員会

0 S=1:5000 100m

例 言

- 1 本書は、扶桑レクセル株式会社によるマンション建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査から報告書刊行に至るまでの一連の作業は、扶桑レクセル株式会社の費用負担によって行われた。
- 3 発掘調査及び整理作業は、前橋市教育委員会の指導・監督のもと、有限会社歴史考房まほらが実施した。
- 4 発掘調査の事項は以下のとおりである。

- 遺跡名 称 前橋城(車橋門丸馬出遺構) 調査コード:19H42
調査主体者 前橋市教育委員会 教育長 中澤 光裕
遺跡所在地 前橋市大手町二丁目番地18-19-24
調査担当者 梅澤 克典(前橋市教育委員会)・笠原 仁史(有限会社歴史考房まほら)
調査期間 平成20年 2月25日 ~ 平成20年 3月28日
調査面積 約1300m²
整理期間 平成20年 4月 1日 ~ 平成20年 6月20日
- 5 本書の編集・執筆は笠原が行い、各業務については下記のとおり業務を分担、あるいは委託した。
測量:田中隆明 / 遺物注記:高橋実果 / 地磁器鑑定・観察:新井伸昭・大嵐崎泰明 / 遺物写真図版撮影:山縣哲章
自然科学分析:㈱火山灰考古学研究所
- 6 発掘調査資料、出土遺物は一括して前橋市教育委員会に保管してある。
- 7 発掘調査・整理作業に従事した者は次のとおりである。(五十音順・敬称略)
- 発掘調査: 新井益子・五十嵐慶三郎・井上誠・国定茂・森田全彦・山口勝正
整理作業: 栗山佐江子・渡辺由美

凡 例

- 1 本書に使用した地図は、国土地理院発行『数値地図25000(地図画像)宇都宮(平成15年11月2刷)』および『前橋市現形図1:2500』(平成15年10月測囲)である。また、表紙の縦張復元図は前橋市観光協会発行『開東の草・前橋城』を加工したものである。
- 2 本書掲載図の縮尺は各図に示したとおりである。
- 3 掘査図の北方向は座標北方向角を、水準線は標高を示す。座標値は日本測地系JIX系を用いた。
- 4 土層の色調、および遺物觀察表の色調は『標準土色帖』(財團法人日本色彩研究所色票監修)を使用した。

目 次

掲載遺構図・写真			
例言・凡例・目次			
1 調査に至る経緯	前橋城縄張復元図	表紙	埋設木構
2 調査経過概要	基本土層	3	溝
3 基本層序	遺構配置・全景	4	住居
4 遺構・遺物の概要	堀	5	土坑・ピット
5 付図 火山灰分析報告書	井戸	9	出土遺物
	堅穴状遺構	11	遺跡周辺図
			裏表紙

1 調査に至る経過

平成19年9月に扶桑レクセル株式会社より大手町についての協議を受けた。該当地は周知の埋蔵文化財包蔵地(前橋城)に属する。このため、事前に試掘調査を実施し、遺跡の有無、遺構までの深さや内容を確認する必要が生じた。

平成19年10月に試掘調査依頼書が前橋市教育委員会に提出された。これを受け平成19年11月12日~14日にかけて試掘調査を行った。その結果、前橋城の土塁・堀跡等のほか平安時代の土器等も検出したため協議を行った。現状での保存が不可能との事から、記録保存を目的とした発掘調査について調整に入った。平成20年2月に(仮称)レクセルマンション前橋新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。本市教育委員会ではこれを受け、建物建設予定地の調査を実施した。なお、現地調査は本市教育委員会の指導のもと、有限会社歴史考房まほら(代表取締役 笠原仁史)が担当した。

2 調査経過概要 (平成20年 2月 25日 ~ 平成20年 3月 28日)

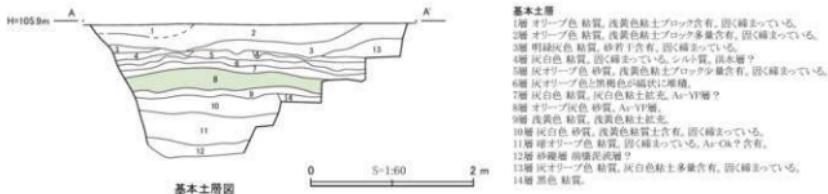
調査は対象範囲を東西二分し、前半に東半分、後半に西半分の遺構調査を実施した。

- 2月25日 : 調査着手。重機(バックホー0.7m³/押しブル30P)・ユニットハウス搬入。表土掘削開始。
2月26日 : 遺構調査開始。
2月27日 : 表土掘削終了。
2月29日 : 全体プラン確認。全景写真撮影。
3月3日 : 基準点測量。全体平面測量着手。
3月7日 : 東半分遺構調査終了。
3月10日 : 東半分埋め戻し。重機(バックホー0.7m³/押しブル30P)搬入。
3月11日 : 西半分表土掘削開始。
3月12日 : 遺構調査開始。
3月13日 : 表土掘削終了。
3月14日 : 全体プラン確認。全景写真撮影。火山灰分析。
3月17日 : 全体平面測量着手。
3月24日 : 西半分遺構調査終了。
3月26日 : 遺構測量終了。
3月27日 : 埋め戻し。
3月28日 : ユニットハウス・仮設トイレ・仮設電気撤去。現地調査終了。

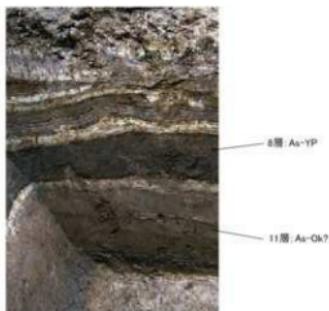
3 基本層序

本遺跡の基本層序は、東西調査区の堀北側に設定した断割りトレーナーおよび堀壁で堆積状況を観察し、地層に含まれる火山灰について分析を行った。土層の堆積状況および分析結果については基本土層図・堀Aセクション、「火山灰分析報告書」を参照されたい。

およそ本遺跡の地層は青色から浅黄色の色調を呈し、水成堆積の様相を示しているが、洪水による堆積層と判断されるものも含め徐々に微高地が形成されていった過程が想像される。本遺跡で確認された平安時代の住居はそうした微高地に展開する集落の一部と考えられる。



基本土層 南西5m



8層 Ar-YF
11層 Ar-OK?

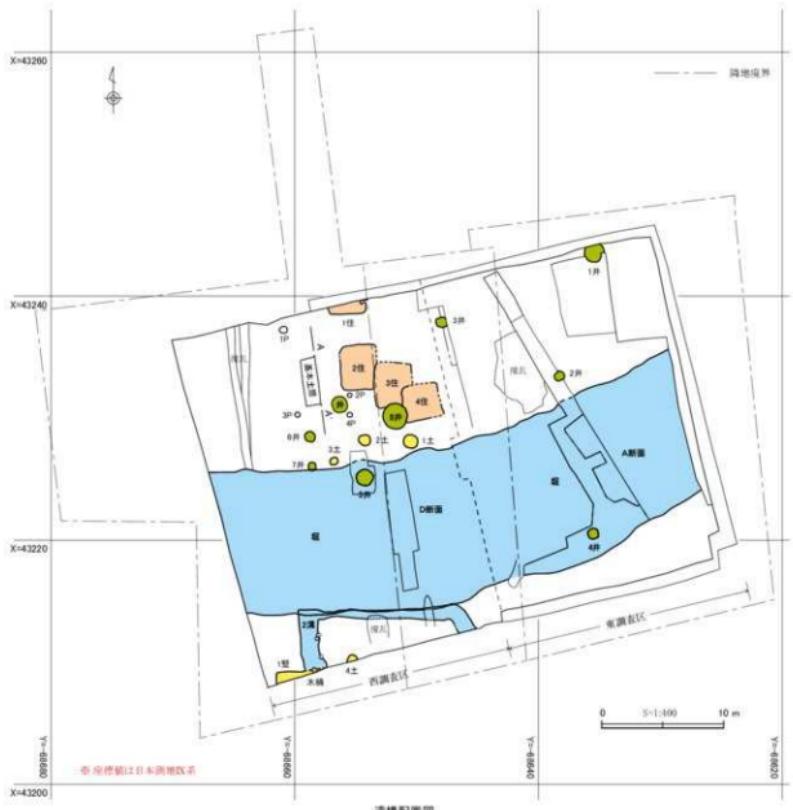
4 遺構・遺物の概要

本調査は約120年前(幕末)の絵図に描かれている車橋門丸馬出の範囲にあり、堀、土壙の残存状況・形状・規模など絵図との比較照合が成果として期待された。調査の結果、堀は絵図に描かれたものとほぼ一致するように確認されたが、土壙は後世の削平により確認することはできなかった。堀は調査区南寄りを東西に弧状に延び上幅12×下幅5×深さ2m程を測る。断面形は台形状を成し、底中央部には上幅1m×下幅50cm×深さ25cm程を測る溝が走っている。

その他、検出された井戸8基には素掘り、石積みに加え、上部を焼き締め陶器で覆ったポンプによる汲み上げ式と思われる3種類が認められた。いずれも時期の特定は難しいが、堀の構築時期前後から現代が考えられる。住跡はいずれも削平が著しく、わざかに床面下の掘り方が残存するのみであるが、須恵器・土師器が数多く出土しており、平安時代のものと考えられる。検出遺構・遺物は以下のとおりである。

遺構 : 近世以降の堀、井戸8基、堅穴状遺構1基、埋設木桶1基、構1条 / 平安時代の住居4軒、土坑1基
時期不明の土坑3基、ビット4基

遺物 : 近世～現代の陶器類 バンケース5箱、石垣の石1点、木桶1点、木製農具1点、下駄2点
平安時代の須恵器・土師器 バンケース2箱



道模配置図



東調査区全景 北から



西調査区全景 北から

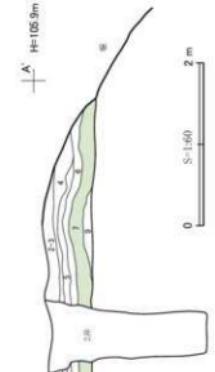


完全景(東調査区) 西から

完全景(西調査区) 東から



地質断面図



地中央調査 西から



地盤断面図

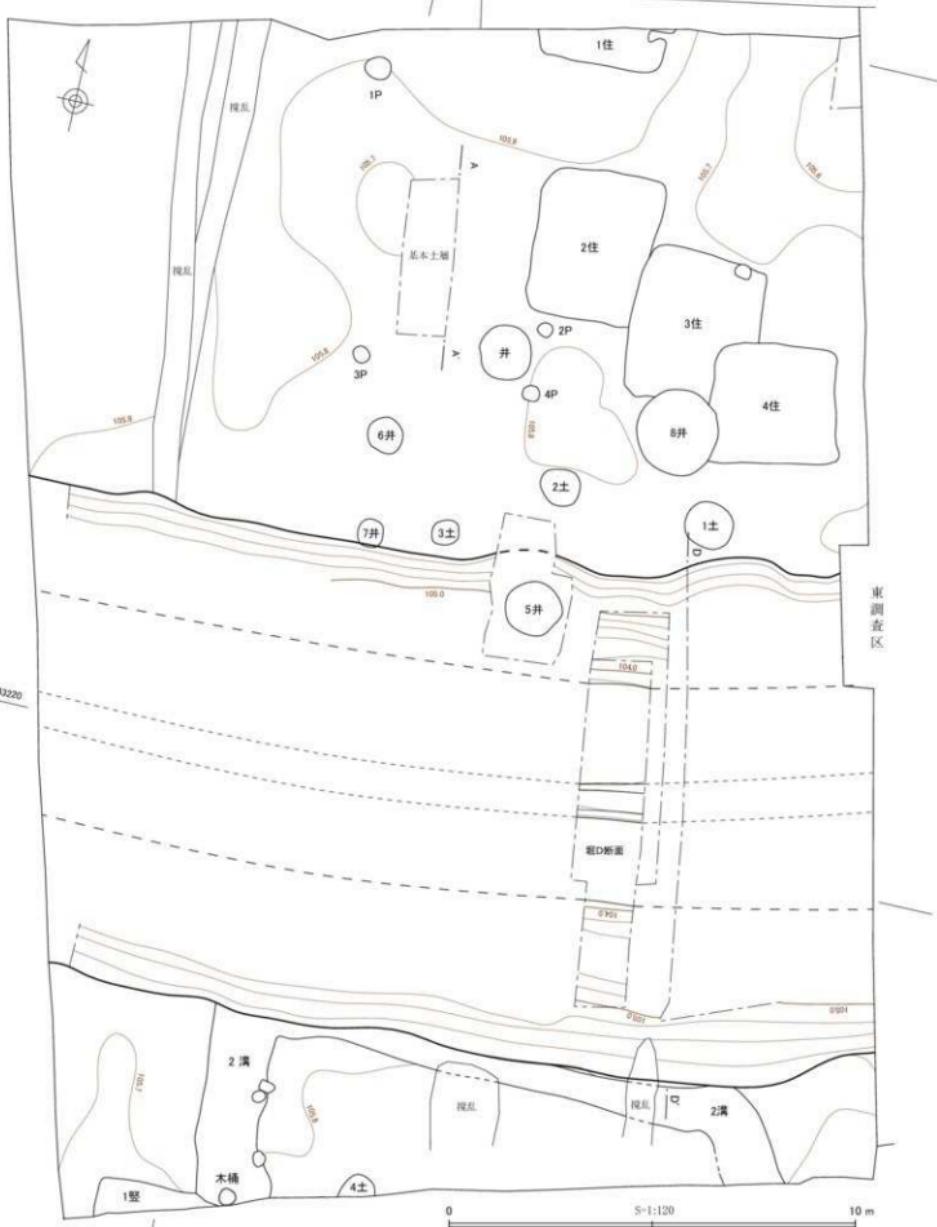
地盤断面図 A-A'

説明:

- 1層 黒褐色、固い砂岩、固い砂岩。
- 2層 深灰色(深灰色)粘質、半灰化粘土上層。
- 3層 深灰色(深灰色)粘質、半灰化粘土上層。
- 4層 深灰色(深灰色)粘質、半灰化粘土上層。
- 5層 深灰色(深灰色)粘質、半灰化粘土上層。
- 6層 深灰色(深灰色)粘質、半灰化粘土上層。
- 7層 深灰色(深灰色)粘質、半灰化粘土上層。
- 8層 深灰色(深灰色)粘質、半灰化粘土上層。
- 9層 黒褐色(深灰色)粘質、半灰化粘土上層。
- 10層 ダークグリーン色(深灰色)粘質、半灰化粘土上層。



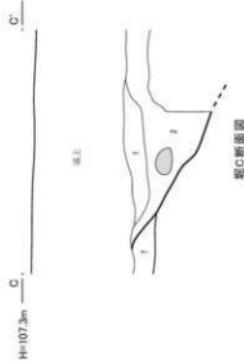
地盤断面図 A-A'



図(西調査区)全体図



図(東調査区)全体図



B-B-C-(調味品西野)



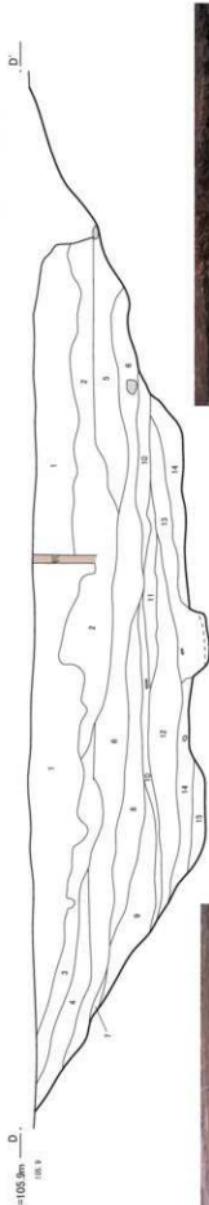
経Cセクション 重力から



卷之三



EDセクション(前編) 西川



卷之三

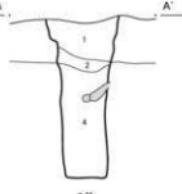
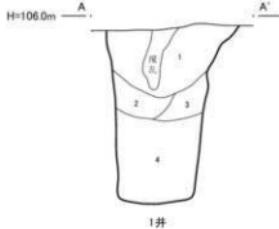
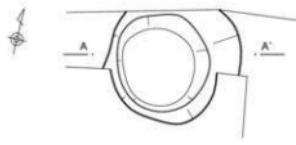


北西から
題のセクション(中央)



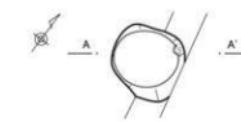
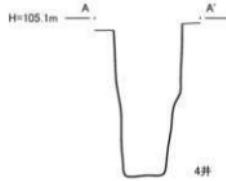
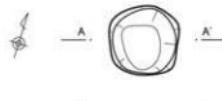
題Dセグション(意識~甲斐) 南西から

100% リバーフロードウッドの無垢材。木目が美しい、温かみのある木目。表面は、手触りがよく、肌に優しい。また、木の香りがする。リバーフロードウッドは、高級な木目で、木の質感がよく表現される。また、木の温かみが感じられる。また、木の香りがする。リバーフロードウッドは、高級な木目で、木の質感がよく表現される。また、木の温かみが感じられる。



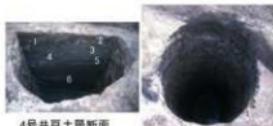
1・2号井戸

- 1層 黄色 粘質。青灰色粘土ブロック少量有。縫りなし。
- 2層 オーライ 黒色 粘質。青灰色粘土ブロック多量含。縫り普通。
- 3層 オーライ 黑色 粘質。青灰色粘土ブロック僅少、炭化物少量含有。縫り普通。
- 4層 黑色 粘質。青灰色粘土ブロック少量含有。縫りなし。



- 3号井戸
~上層: 黒色土
~中層: 線多種
~下層: 竹根紅灰
最下層: 黑色粘質土

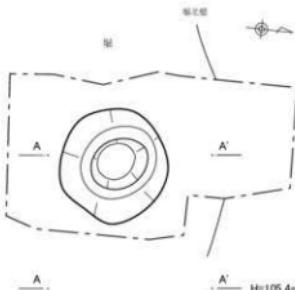
0 S=1:60 2 m



4号井戸 北から

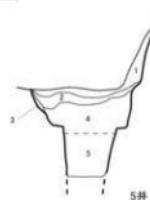
4号井戸

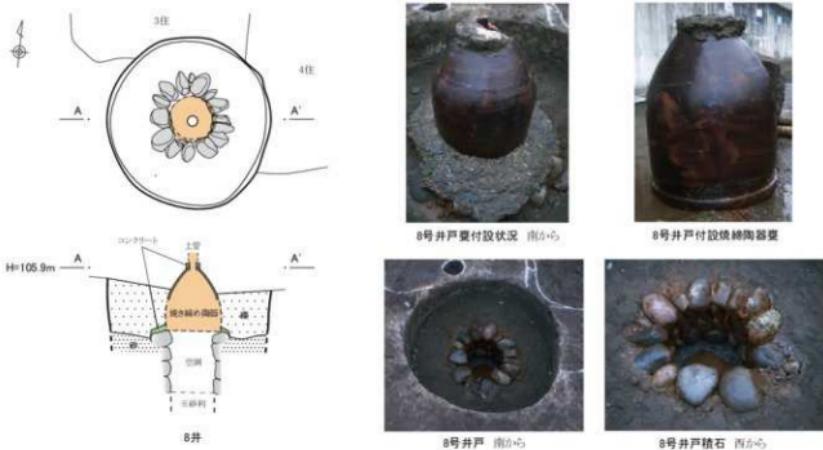
- 1層 黑色 粘質。青灰色粘土ブロック少量有。縫りなし。
- 2層 青灰色 粘質。青灰色粘土ブロック多量有。縫りなし。
- 3層 青灰色 粘質。青灰色粘土ブロック含。縫りなし。
- 4層 深灰色 粘質。青灰色粘土ブロック多量含。縫りなし。
- 5層 深灰色 粘質。青灰色粘土ブロック含。縫り普通。
- 6層 黑色 粘質。青灰色粘土ブロック少量含。縫りなし。



5号井戸

- 1層 黑色 粘質。浅黄色粘土ブロック少量含。縫りなし。
- 2層 黑色 粘質上砂利層の上に。縫り普通。
- 3層 黑色 粘質。青灰色粘土ブロック多量含。縫り普通。
- 4層 浅黄色 粘質。七ツブロック含。縫り普通。
- 5層 黑色 砂・小石粒混。粘土ブロック若干含。縫りなし。





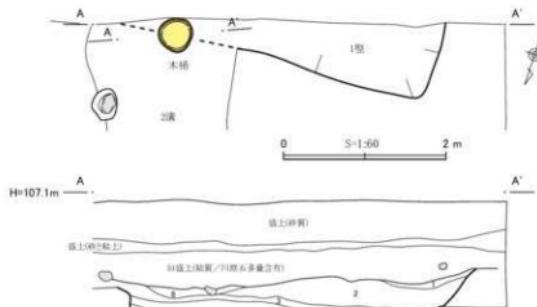
井戸一覧表

計測単位=m. ()は確認値

番号	長軸	短軸	深さ	平面	断面	位置	遺物	時期	備考
1	1.7	1.4	2.2	円形	簡状	調査区北東部	瓦片	近世	
2	0.9	0.9	2.0	円形	筒状	調査区東部	なし	近世?	
3	1.0	0.9	3.2	円形	筒状	調査区北部中央	石塔、瓦片、下駄	近世	覆土に縫、竹根状光。
4	0.9	0.9	1.9	円形	筒状	堀南壁(東寄り)	内耳鏡	近世?	堀との新旧関係不明。
5	1.4	1.3	(1.1)	円形	有段闊斗状	堀北壁(西寄り)	砥石片	堀より新しい	有段部上位に石積みが施されていた可能性が高い。覆土下層は玉石状光。前構造層を掘り込んでいる。深さ不明。
6	0.9	0.9	(1.6)	円形	筒状	調査区北西寄り	内耳鏡	近世	前構造層を掘り込んでいる。深さ不明。
7	0.7	0.6	(1.5)	円形	筒状	調査区北西寄り	なし	近世?	堀との新旧関係不明。
8	0.5	0.5	(0.8)	円形	石積み	調査区北西寄り	陶器(行平把手)	近現代	石積みの上に後焼陶器甕が口縁部を下に敷設され、上は底部穿孔部に土管が接合されている。いずれもコンクリートで固められている。
	2.1	2.0	(1.4)	円形	筒状				



1号豎穴 西方心



The diagram shows a cross-section of a dam. On the left, the water level is labeled H=106.0m. The dam has two vertical sections. The left section has a top horizontal line labeled '2'. The right section has a top horizontal line labeled '4'. Below the left section, the water level is labeled '2至'. Below the right section, the water level is labeled '1至'. A horizontal line labeled 'A-A'' passes through the top of the right section.

理設木種

埋設木桶

- 1層 黒色 粘質。縛まっている。
- 2層 黒褐色 粘質。砂若干含有。軟らかい。
- 3層 黒色 粘質。青灰色粘土小ブロック少量含有。縛まっている。
- 4層 1型穴8層
- 5層 1型穴3層
- 6層 1些穴4層
- 7層 1型穴1層

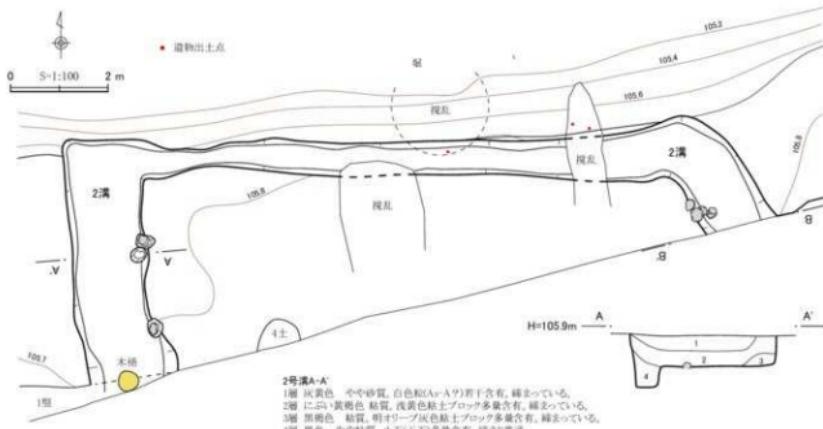


埋設木桶断面 割り断面 北西から

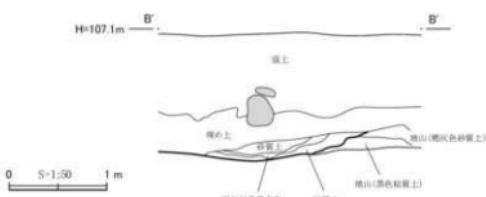


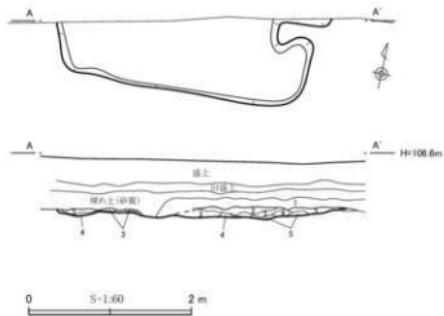
壇脇木桶 北から

1層 黄褐色 粘質。砂少量含有。軟らかく.
 2層 黄褐色 砂層。1mmに分層可能。緻密な通路。
 3層 黒褐色 粘質。砂多量含有。繊維なし。
 4層 从黒色 砂層。2mmに厚くなる。
 5層 黑色 黑色粘土質と灰色粘土質との混土。緻密なし。根皮? 含有。
 6層 淡オーブリーグ色 砂層。繊維なし。
 7層 黑色 粘質。繊維なし。木屑・小枝多量含有。
 8層 黑褐色 粘質。繊維なし。



2号清 西方心



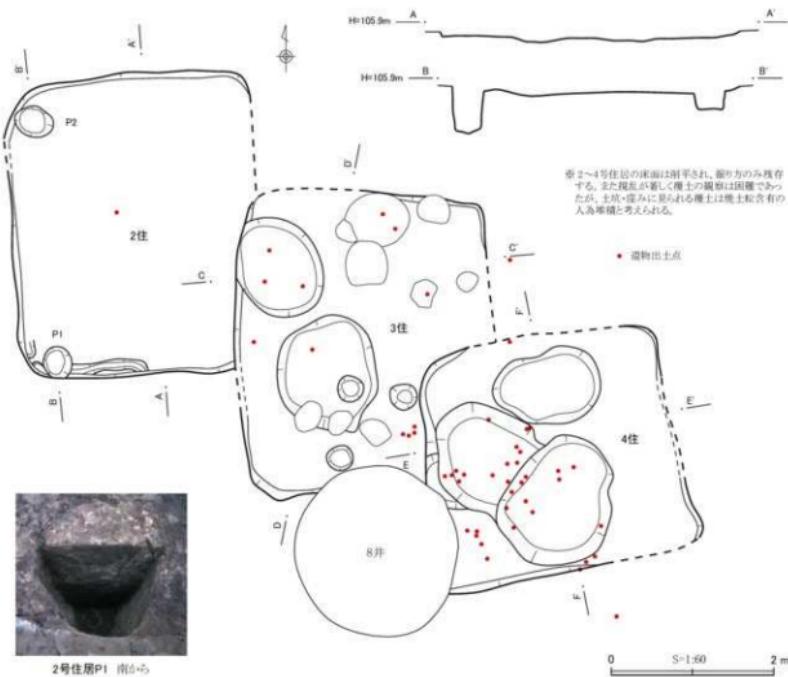


1号住居全景 南から

1号住居

- 1層: 黒灰色 やや粘質、白色粘土(Ar-A')少含有。固く締まっている。
- 2層: 黒灰色 やや粘質、白色粘土(Ar-A')少含有。固く締まっている。
- 3層: 黒灰色 やや粘質、褐色粘土若干含有。固く締まっている。
- 4層: 黑 色 やや粘質、浅黄色粘土小ブロック含有。固く締まっている。以下住居層土。
- 5層: 黑色 やや粘質。固く締まっている。

1号住居跡



2~4号住居の表面は削平され、面取りのみ残存する。また現段が着しく埋土の観察は困難であったが、土坑・窓みに見られる埋土は堆土粘土含有の人為堆積と考えられる。

● 考古出土点

2~4号住居跡



2~4号住居 南から



2号住居 南から



3号住居 南から



4号住居 南から



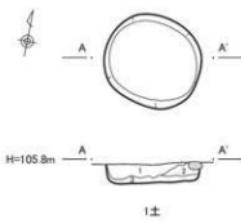
4号住居遺物出土状況 北から



4号住居遺物出土状況 南東から



4号住居床下土坑土層断面 南東から

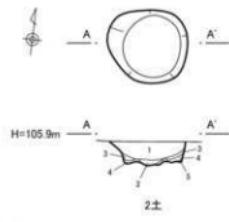


1号土坑

1層 黒褐色 やや粘質。炭化粒・オリーブ色粘土小ブロック
含有。縦まつっている。
2層 淡オリーブ色 やや粘質。オリーブ色粘土小ブロック多
量、炭化粒少微量含有。縦まつっている。
3層 オリーブ灰色 粘質。オリーブ色粘土小ブロック拡充。
縦まつっている。



1号土坑 南から

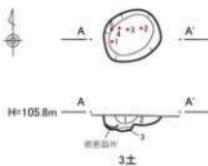


2号土坑

1層 黒褐色 やや粘質。オリーブ色粘土小ブロック
含有。縦まつっている。
2層 黒色 やや粘質。オリーブ色粘土若干含有。
縦まつっている。
3層 淡黄色 砂質。縦まつている。
4層 オリーブ色 粘質。黄色鉱少量含有。縦まつて
いる。
5層 黒色 やや粘質。縦まつしている。



2号土坑 南から

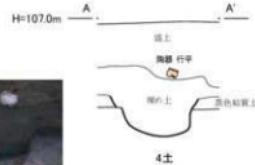
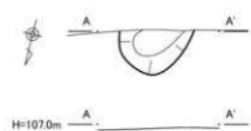


3号土坑

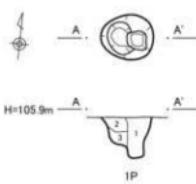
1層 黑褐色 炭化粒多量含有。縦まつている。
2層 黑色 炭化粒・焼土粒少微量含有。縦まつて
いる。
3層 黑褐色 烧土粒若干含有。縦まつっている。



3号土坑遺物出土状況 南から



4号土坑 北から

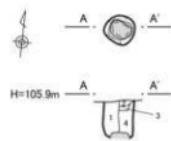


1号ピット

1層 黒褐色 やや粘質。粘土粒若干含有。縦まつっている。
2層 黒褐色 やや粘質。白色粒(A-A?)僅か含有。縦まつて
いる。
3層 黑褐色 やや粘質。白色粒(A-A?)少微量含有。縦まつて
いる。



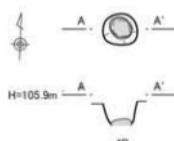
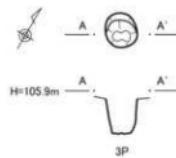
1号ピット土層断面 南から

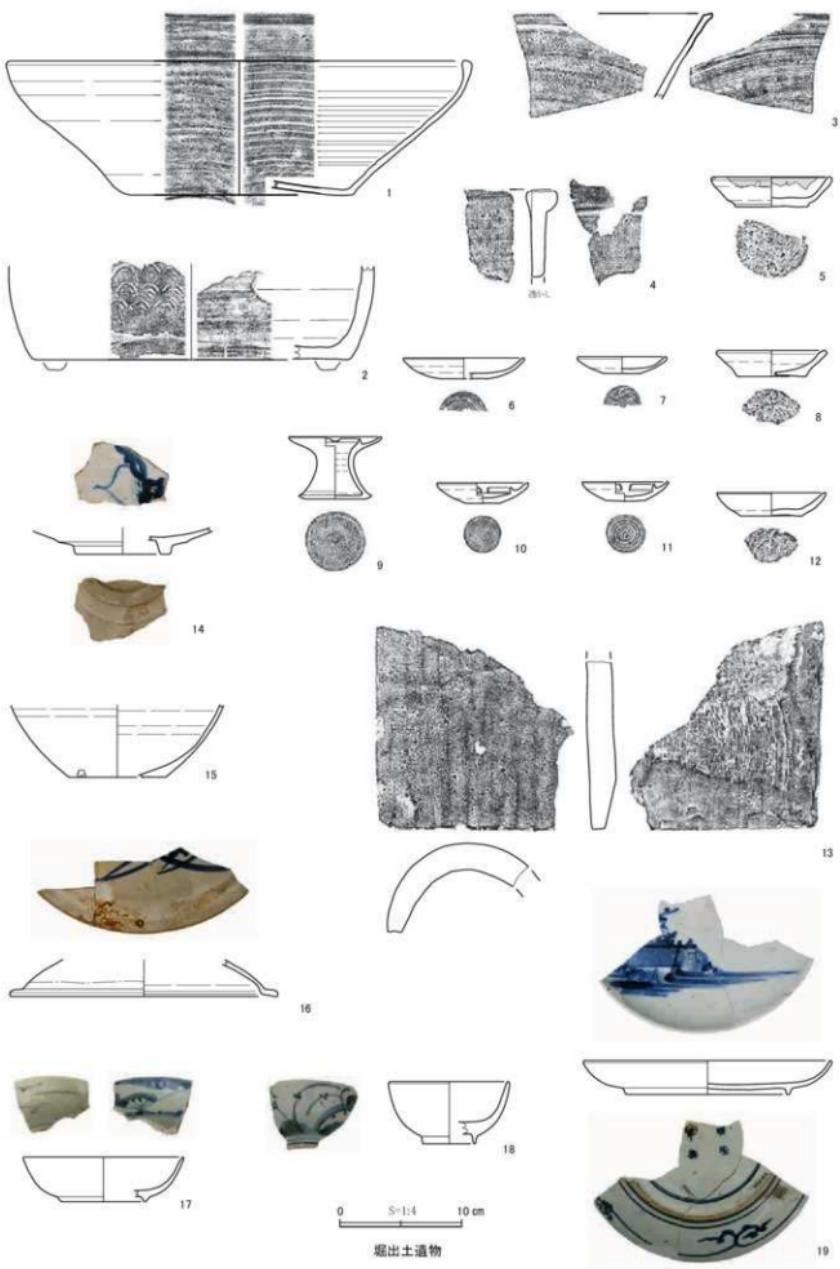


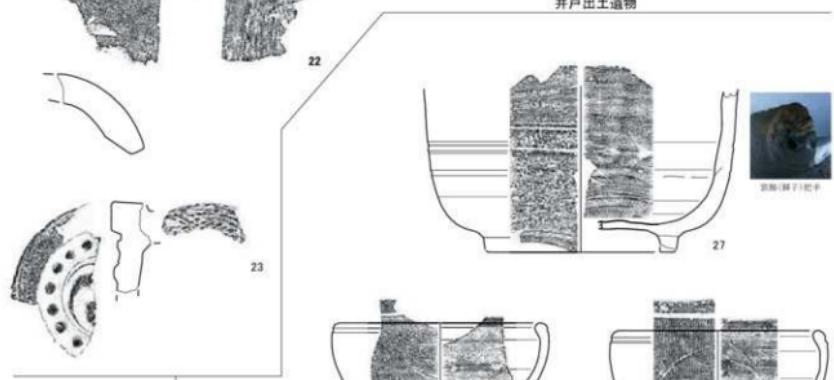
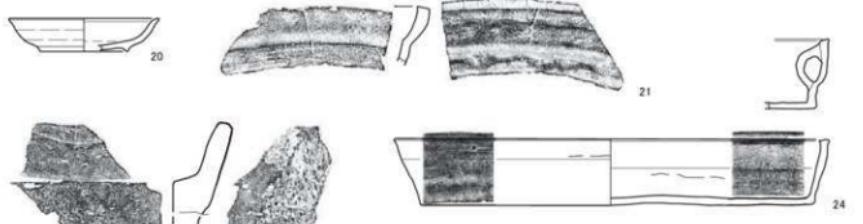
2号ピット土層断面 南から



3号ピット土層断面 南から









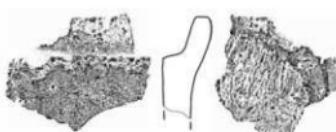
41



42



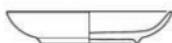
43



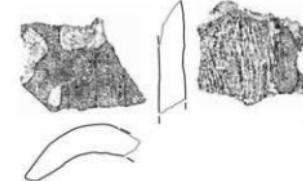
44



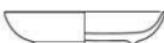
46



47



49



50



0 S=1:4 10 cm



5号井戸出土遺物



鍋類・コノロ？



灯明具



陶器



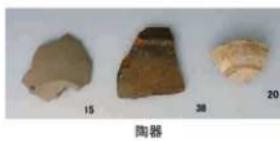
堀出土大鉢



6号井戸出土内耳鉢



鉢類



陶器



鐵



现代磁器



磁器(肥前)新



磁器(肥前)新



十能

暖房具?

表

席

13

25

30

表採



瓦·目皿



石製品



下歎



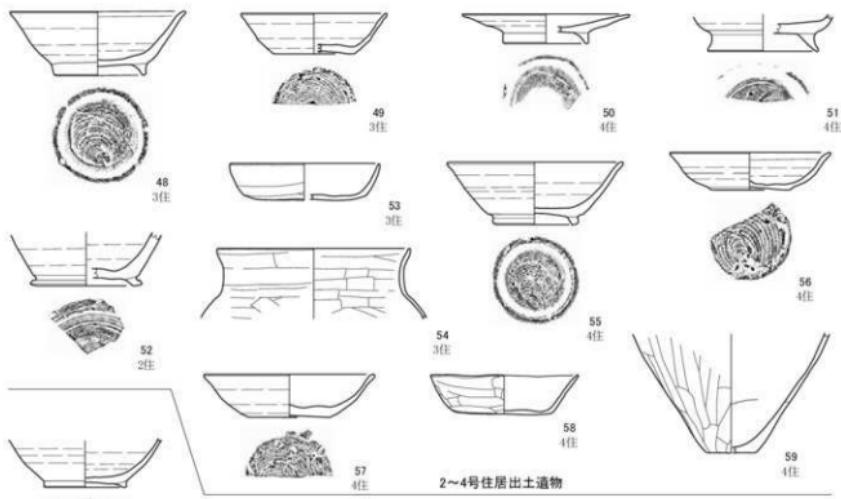
木製品



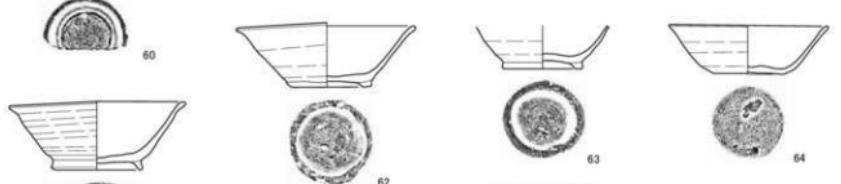
儀櫛椎



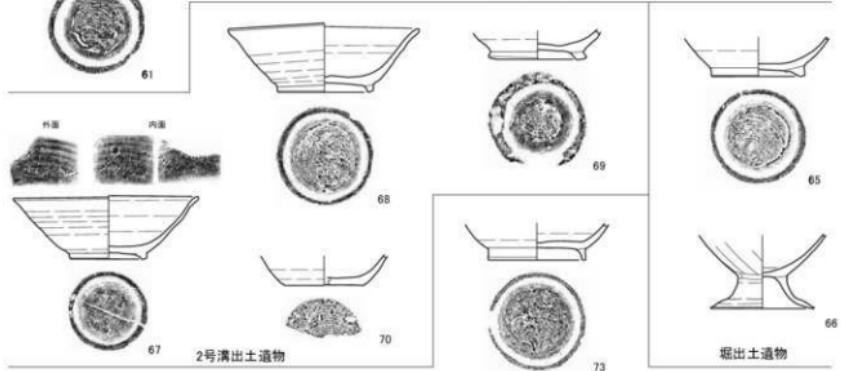
木桶



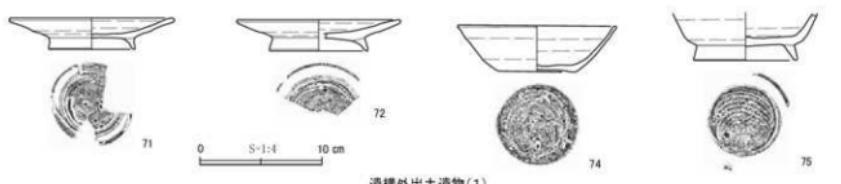
2~4号住居出土遺物



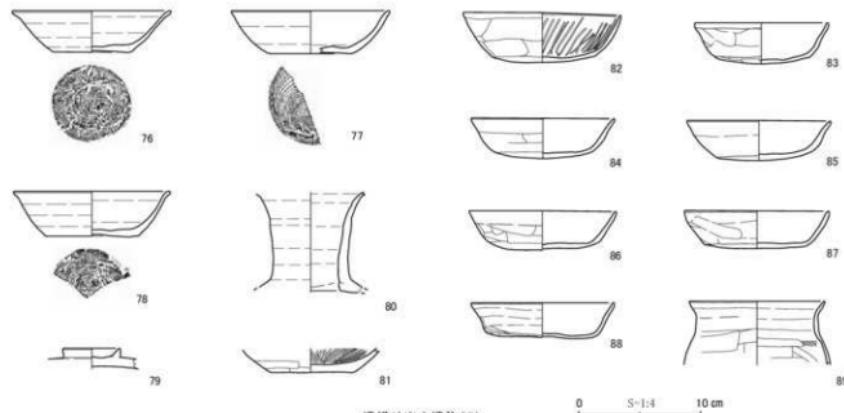
3号土坑出土遺物



2号窯出土遺物



遺構外出土遺物(1)



遺構外出土遺物(2)

0 S=1:4 10 cm



2・3号住居出土遺物



4号住居、3号土坑出土遺物



堀、2号溝、土坑出土遺物



70の内壊



67の外表面刻書



67の内表面刻書



67の内面刻書



須恵器(一括)



土師器(堀、一括)

出土物観察表

No.	種別/器種	出土位置・西番	計量値	①胎土/②色調		③焼成/④輪郭	或・整形
				①砂粒	②黑色		
1	軽質陶器 大鉢	堀一括 2/3	口: 38.1 底: 18.6	高: 11.1	①砂粒 ②黑色	③普通 ④一 ⑨過・潤元	外: ナヅ 内: カリ目風、擦し
2	素燒 火鉢	体～武藏破片 底: 26.0	口: -	高: 7.8	①白色・砂粒 ②灰色	④ -	外: ハラダ 内: ハラダ、擦し
3	軽質陶器 鍋	堀一括 口部破片 底: -	口: -	高: 7.0	①砂粒 ②灰色	③良好 ④ -	外: ハラダ 内: ハラダ、擦し
4	火鉢・ココロリ	堀一括 口部破片 底: -	口: -	高: 7.0	① - ②黒褐色	③普通・酸化 ④ -	外: ハラダ 内: 口縁上部斜材付着、擦し
5	かじらけ	堀一括 1/2	口: 10.0 底: 6.0	高: 2.5	①砂粒 ② ²⁻³ 黄色	③ - ④ -	回転角切り・左回転 擦痕
6	陶器 灯明器	堀一括 口～底部1/5	口: 10.0 底: 3.8	高: 1.7	①砂粒 ②褐色	③良好 ④ -	外: 口縁斜軸・回転・ハケヅリ(体～底部)・右回転
7	陶器 灯明器	堀一括 口～底部破片	口: 7.3	高: 1.4	①砂粒 ②褐色	③良好 ④ -	外: 密ね擦痕
8	かじらけ	堀一括 口～底部1/3	口: 9.1 底: 5.6	高: 2.2	①砂粒 ②淡黄褐色	③良好・酸化 ④ -	回転角切り
9	陶器 平仄	堀一括 中房	口: 7.5 底: 5.9	高: 5.2	①砂粒 ② ²⁻³ 褐色	③良好 ④ -	外: 底面凹凸・ハケヅリ 底部無軸
10	陶器 灯明器	堀一括 完形	口: 7.5 底: 5.0	高: 1.7	① - ②褐色	③良好 (良軸)	外: 口縁斜軸・回転・左ねじれ・ハケヅリ(体～底部)
11	陶器 灯明器	堀一括 完形	口: 7.1 底: 3.2	高: 1.6	①砂粒 ②褐色	③良好 (良軸)	外: 口縁斜軸・回転・ハケヅリ(体～底部)
12	かじらけ	堀一括 口～底部1/4	口: 9.0 底: 5.0	高: 1.9	①砂粒 ② ²⁻³ 黄色	③良好・酸化 ④ -	回転角切り・擦し 内: ハラダ
13	瓦 瓦 瓦	堀一括 1/2	長: 13.9 幅: 11.6	厚: 2.1	①砂粒 ②灰色	③良好 ④ -	裏: 滑目タキ 擦し
14	陶器 盆	堀一括 体～底部破片	口: -	高: 2.1	① - ②淡褐色	③良好 ④ -	高台輪郭無軸・削り出し高台 京焼・当筋組
15	軽質陶器 焼物・鍋	堀一括 体～底部破片	口: -	高: 5.9	①灰土・滑苔・微細 ②淡黄色	③ - ④ -	
16	陶器 釜	堀一括 口～底部破片	口: 22.0 底: -	高: 3.1	① - ②淡黄色	③ - ④ -	口縁無軸 良頭輪 志保尼他?
17	磁器 染付皿	堀一括 口～底部破片	口: 13.1 底: 6.8	高: 3.7	① - ②淡白色	③ - ④ -	肥前?
18	磁器 染付小鉢	堀一括 口～底部1/3	口: 10.0 底: 4.2	高: 5.1	① - ②淡白色	③ - ④ -	肥前
19	磁器 染付皿	堀一括 1/3	口: 20.4 底: 13.3	高: 2.8	① - ②白色	③ - ④ -	高台「大明成化年製」の染付け 肥前 17～18世紀?
20	陶器 小皿	1井一括 1/5	口: 12.2 底: 7.1	高: 2.7	① - ②淡白色	③ - ④ -	美濃 17-18c
21	軽質陶器 内耳皿	1井一括 口部破片	口: -	高: 4.7	① - ②黑色	③ - ④ -	
22	瓦 瓦 瓦	1井一括 破片	長: 7.6 幅: 7.1	厚: 2.6	①砂粒 ②暗灰色	③良好 ④ -	内: 縄目タキ
23	瓦 瓦 軒丸	3井一括 破片	長: 7.4 幅: 2.3	厚: 2.3	①滑苔・砂粒 ②暗灰色	③良好・潤元 ④ -	三つの軒丸 機工 接合部網目
24	軽質陶器 燈籠	6井一括 ほぼ丸形	口: 35.7 底: 32.2	高: 5.5	①砂粒 ②黑色	③普通 ④ -	外: ナヅ 内: ハラダ、擦し
25	瓦 瓦 十掛	2井10井 直井	長: 10.9 幅: 12.8	厚: 4.7	①滑苔・砂粒 ②黑色	③ - ④ -	機工
26	かじらけ	4井一括 1/2	口: 9.8 底: 6.1	高: 1.9 幅: -	①滑苔・砂粒 ② ²⁻³ 黄色	③良好・酸化 ④ -	回転角切り・左回転
27	軽質陶器 桶	覆瓦一括 口～底部破片	口: 15.8 底: 13.2	高: -	① - ②淡褐色	③普通 ④ -	外: 鋼子泥把手手付高台 小乳頭(18c～19c)
28	軽質陶器	覆瓦一括 口～底部破片	口: 16.4 底: 12.0	高: 7.4 最大径17.8	①砂粒 ②暗灰色	③ - ④ -	内: ハラダ
29	軽質陶器	覆瓦一括 3/4	口: 16.4 底: 10.4	高: 9.0 最大径17.9	① - ②黑色	③ - ④ -	内: ハラダ、擦し
30	瓦質 十掛	覆瓦一括 口～底部破片	長: 1/3 底: -	厚: 5.1	① - ②灰色	③良好 ④ -	把手: ハケヅリ 擦し
31	わたり鉢	覆瓦一括 1/3	底: -	高: 9.5	① - ②淡黄色	③良好 ④ -	美濃 18c
32	陶器 桶	覆瓦一括 口～底部1/2	底: 11.0	高: 9.5	①砂粒 ②褐色	③良好 ④ -	外: 両出し高台・底部下端に削輪・投げ縫 内: ドン棒・瓶口丸轍 18c～後
33	陶器 灯明器	覆瓦一括 1/3	底: 3.2	高: 2.1	①砂粒 ②褐色	③良好 ④ -	外: 口縁斜軸・体～直井回転・ハケヅリ 重ね擦痕

№	種別・器種	出土位置・所在	計測値	①紳士・②色調		③焼成・④輪郭	成・整形	
				寸	高			
34	陶器	鹿丸一括	口：4.5 高：4.5	①～ ②黒褐色	③魚鉾 ④鉢	■	■	
水注	口・体部	底：	～	～	～	～	■	
35	陶器	鹿丸一括	口：4.8 高：2.4	①～ ②黒褐色	③魚鉾 ④鉢	■	■	
米甌	口・体部破片	底：	～	～	～	～	■	
36	陶器	鹿丸一括	口：～ 高：4.0	①～ ②浅黄色	③魚鉾 ④鉢	■	■	
小杯	体・底部	底：	8.0	～	～	～	■	
37	陶器	鹿丸一括	口：～ 高：4.5	厚：8.4 ①～ ②灰オーブ色	③魚鉾 ④鉢	■	■	
花立?	底	底：	～	～	～	～	■	
38	陶器	鹿丸一括	口：～ 高：8.5	①白・黄・灰石・砂粒 ②灰・白・灰褐色	③魚鉾・輪化 ④鉢	■	■	
栉林	口・縁部破片	底：	～	～	～	～	■	
39	陶器	鹿丸一括	口：～ 高：～	①～ ②灰褐色	③魚鉾 ④黃褐色	■	■	
井	1/3	底：	～	～	～	～	■	
40	陶器	鹿丸一括	口：～ 高：4.0	①～ ②灰白色	③魚鉾 ④灰	■	■	
むち鉢	体・底部破片	底：	17.1	～	～	～	■	
41	陶器	鹿丸一括	口：～ 高：5.0	①～ ②灰白色	③魚鉾 ④灰	■	■	
土瓶	体部破片	底：	～	～	～	～	■	
42	埴輪	馬一頭	口：～ 高：5.3	①～ ②灰白色	③魚鉾 ④灰	■	■	
拂到?	体部破片	底：	～	～	～	～	■	
43	埴輪	鹿丸一括	口：13.8 高：4.2	①～ ②灰白色	③魚鉾 ④灰	■	■	
竹	1/2	高：	8.0	～	～	～	■	
44	埴輪	鹿丸一括	口：12.6 高：2.7	①～ ②灰白色	③魚鉾 ④灰	■	■	
且	1/2	高：	8.1	～	～	～	■	
45	埴輪	鹿丸一括	口：13.1 高：7.9	①～ ②灰白色	③魚鉾 ④灰	■	■	
瓦	瓦丸一括	長：9.9 破片	厚：2.6 幅：9.1	①砂粒 ②灰褐色	③魚鉾 ④灰	■	■	
瓦丸	瓦丸一括	長：9.2 破片	厚：2.1 幅：9.4	①砂粒 ②灰褐色	③魚鉾 ④灰	■	■	
46	瓦	35%馬小?一括	口：14.4 高：5.2	①結晶片岩・雲母・小礫・白色鈣石粒	③不良・中性	外・付高台・回転系切り・左回転	■	
47	瓦丸	4/5	底：	7.7	～	内・磨きタキ	■	
48	瓦	35%馬小?一括	口：12.0 高：3.4	①結晶片岩・雲母・鈣繊維	③魚好・瀬元	外・底部回転系切り・右回転	■	
49	瓦	口～底部1/4	底：	6.8	～	～	■	
50	瓦	口～底部1/3	底：	7.1	高：2.4 ①砂粒 ②灰褐色	③普通・中性 ④灰	外・付高台・回転系切り 外・付高台	
51	瓦	4/5	底部破片	底：9.1	～	～	■	
52	瓦	單形	口～底部破片	底：9.2	高：4.4 ①鈣石・砂粒 ②灰褐色	③魚好・瀬元 ④灰	外・ヘラケズリ後・ナダ 外・回転・ナダ	
53	土師器	3月Na33	口：12.3 高：3.0	①母母・砂粒 ②灰褐色	③普通 ④灰	外・口縁コナダ・体部ナダ・底部ヘラケズリ	■	
54	土師器	口～底部	底：	9.8	～	内・ナダ	■	
55	土師器	口～底部破片	底：	9.1	～	～	■	
56	土師器	4月Na17	口：14.5 高：5.2	①結晶・雲母 ②灰褐色	③普通・飼羅元 ④灰	外・付高台・回転系切り・左回転・ヘラナダ 内・ナダ	■	
57	土師器	2/3	底：	7.1	～	～	■	
58	土師器	4月Na1	口：5.8 高：5.8	①母母・砂粒 ②灰・雲母 ③灰褐色	③普通 ④灰	外・口・腹ヘラナダ・体部ヘラケズリ 内・ヘラナダ	■	
59	土師器	4月Na17	口：14.5 高：5.2	①結晶・雲母 ②灰褐色	③普通・飼羅元 ④灰	外・付高台・回転系切り・左回転・ヘラナダ 内・ナダ	■	
60	土師器	4月Na3	口：13.2 高：3.1	①砂粒 ②灰褐色	③普通 ④灰	外・回転系切り・右回転	■	
61	土師器	4月Na4	口：12.1 高：3.3	①母母・砂粒 ②灰・雲母 ③灰褐色	③普通 ④灰	外・付高台・底部ヘラケズリ 内・ナダ	■	
62	土師器	4/5	底：	8.0	～	～	■	
63	土師器	4月Na29	口：9.8 高：7.6	①母母・砂粒 ②灰・雲母 ③灰褐色	③魚好 ④灰	外・ヘラケズリ 内・ヘラナダ	■	
64	土師器	4月Na5	口：～	高：3.6	～	～	■	
65	土師器	4月Na1	口：13.1 高：6.3	①結晶・雲母・砂粒 ②灰褐色	③普通・中性 ④灰	外・付高台・回転系切り・右回転・磨減	■	
66	土師器	4月Na17	口：14.0 高：3.6	①砂粒 ②灰褐色	③魚好・中性 ④灰	外・付高台・回転系切り・左回転 内・ナダ	■	
67	土師器	4月Na4	口：12.7 高：5.4	①結晶片岩・石英・雲母・小礫 ②灰褐色	③普通・中性 ④灰	外・付高台・磨減	■	
68	土師器	4月Na5	口：12.7 高：7.6	①結晶片岩・石英・雲母・砂粒 ②灰褐色	③魚好 ④灰	外・付高台・回転系切り・右回転・磨減	■	
69	土師器	4月Na5	口：～	高：3.6	～	～	■	
70	土師器	4月Na1	口：13.6 高：5.7	①結晶片岩・石英・雲母・砂粒 ②灰褐色	③普通・飼羅元 ④灰	外・付高台・回転系切り・右回転・磨減	■	
71	土師器	4月Na17	口：7.5 高：8.1	～	～	内・磨減	■	
72	土師器	4月Na1	口：～	高：6.1	①母母・砂粒 ②灰・雲母 ③灰褐色	③魚好 ④灰	外・付高台・ヘラナダ	■
73	土師器	4月Na17	口：8.8 高：6.4	～	～	～	■	
74	土師器	4月Na1	口：6.5	高：5.3	①母母・砂粒 ②灰褐色	③普通・輪化 ④灰	外・付高台・回転系切り・鍼削(質)? 内・鍼削(質)	■
75	土師器	4月Na1	口：6.3	高：6.3	～	～	■	
76	土師器	4月Na1	口：7.9	高：5.7	①白色鈣石粒 ②灰褐色	③普通・飼羅元 ④灰	外・付高台・回転系切り・右回転・磨減	■
77	土師器	4月Na3	口：～	高：2.5	①母母・砂粒 ②灰褐色	③魚好・中性 ④灰	付高台	■
78	土師器	底部	底：	3.2	～	～	■	
79	土師器	2/3	口：～	高：2.5	①砂粒 ②灰褐色	③魚好・瀬元 ④灰	外・回転系切り・底部要審(質不列)	■
80	土師器	2/3	体～底部破片	底：	6.4	～	～	■
81	土師器	2/3	口：～	高：3.6	①砂粒 ②灰褐色	③魚好 ④灰	付高台	■
82	土師器	2/3	底部	底：	8.1	～	～	■
83	土師器	2/3	口：～	高：3.8	①母母・砂粒 ②灰褐色	③魚好・瀬元 ④灰	付高台・回転系切り	■
84	土師器	2/3	底部	底：	8.0	～	付高台・右回転	■
85	土師器	2/3	口：～	高：3.9	①白・黄・結晶片岩・中継・砂粒 ②灰褐色	③普通・瀬元 ④灰	回転系切り・右回転 内・ヘラナダ	■
86	土師器	2/3	底部	底：	6.4	～	回転系切り・右回転 内・ヘラナダ	■
87	土師器	2/3	口：～	高：3.8	①母母・砂粒 ②灰褐色	③魚好・瀬元 ④灰	付高台・右回転系切り・右回転 内・ヘラナダ	■
88	土師器	2/3	底部	底：	6.5	～	付高台・右回転系切り・右回転 内・ヘラナダ	■
89	土師器	2/3	口：～	高：3.6	①砂粒 ②灰褐色	③魚好・中性 ④灰	付高台	■
90	土師器	2/3	底部	底：	8.1	～	～	■
91	土師器	2/3	口：～	高：3.9	①白・黄・結晶片岩・中継・砂粒 ②灰褐色	③普通・瀬元 ④灰	回転系切り・右回転 内・ヘラナダ	■
92	土師器	2/3	底部	底：	6.4	～	回転系切り・右回転 内・ヘラナダ	■
93	土師器	2/3	口：～	高：3.8	①母母・砂粒 ②灰褐色	③魚好・瀬元 ④灰	付高台・右回転系切り・右回転 内・ヘラナダ	■
94	土師器	2/3	底部	底：	6.5	～	付高台・右回転系切り・右回転 内・ヘラナダ	■
95	土師器	2/3	口：～	高：3.4	①白・黄・結晶片岩・中継・砂粒 ②灰褐色	③普通・瀬元 ④灰	回転系切り・右回転 内・ヘラナダ	■
96	土師器	2/3	底部	底：	6.5	～	回転系切り・右回転 内・ヘラナダ	■
97	土師器	2/3	口：～	高：3.6	①砂粒 ②灰褐色	③魚好・瀬元 ④灰	回転系切り・右回転 内・ヘラナダ	■

No.	種別/層幅	出土位置	現存	計測値	①地土/②色調	③地成/④特徴	成・敷形
78	埴生部 坪	複瓦一枚 1/4	口: 13.0 高: 7.6	高: 3.8	①石灰・砂・砂粒 ②灰色	③良好・還元 ④ -	回転・斜切・右回転
79	埴生部 高	複瓦一枚 塊	径: 4.8	高: 1.7	①砂粒 ②灰白色	③良好・還元・断面顕化 ④ -	回転
80	埴生部 長形塊	複瓦一枚 D-1~D-2断面破片	口: 9.0 高: -	高: 8.3	① - ②灰白色	③良好・還元・断面顕化 ④ -	回転
81	土師器 坪	複瓦一枚 体～折	口: - 高: 6.7	高: 2.0	①石灰・雲母・砂粒 ②に白・褐色	③良好 ④ -	外: ハラナダ 内: 黒色ミガキ
82	土師器 坪	複瓦一枚 D-2断面	径: 12.0	高: 4.2	①石灰・雲母・砂粒 ②褐色	③普通 ④ -	外: 口～体上部ナダ・体下～底面ヘラケズ 内: 繋文
83	土師器 坪	複瓦一枚 D-2断面	径: 8.4	高: -	①砂粒 ②褐色	③良好 ④ -	外: 口縁ヨコナダ・体部ナダ・底面ヘラケズ 内: ナダ
84	土師器 坪	複瓦一枚 D-2断面	径: 11.0	高: 3.4	①砂粒・砂粒 ②に白・褐色	③普通 ④ -	外: 口縁ヨコナダ・体部ナダ・底面ヘラケズ 内: ナダ
85	土師器 坪	複瓦一枚 D-2	径: 8.6	高: 3.3	①雲母・砂粒 ②に白・褐色	③普通 ④ -	外: 口縁ヨコナダ・体部ナダ・底面ヘラケズ 内: ナダ
86	土師器 坪	複瓦一枚 D-2断面	径: 12.1	高: 3.3	①石灰・雲母・砂粒 ②に白・褐色	③普通 ④ -	外: 口縁ヨコナダ・体部ナダ・底面ヘラケズ 内: ナダ
87	土師器 坪	複瓦一枚 完然	径: 11.0	高: 3.1	①雲母・砂粒 ②に白・褐色	③普通 ④ -	外: 口縁ヨコナダ・体部ナダ・底面ヘラケズ 内: ナダ
88	土師器 坪	複瓦一枚 D-2	径: 9.2	高: 3.0	①雲母・砂粒 ②褐色	③普通 ④ -	外: 口縁ヨコナダ・体部ナダ・底面ヘラケズ 内: ナダ
89	土師器 坪	複瓦一枚 D-2	径: 11.1	高: 5.2	①雲母・砂粒 ②に白・褐色	③普通 ④ -	外: 口～頭ナダ・体部ヘラケズ 内: ハラナダ

写真撮影遺物 (3-4往)

No.	種別	層幅	現存	出土位置
90	埴生部	厚	漆器破片	211Na12
91	埴生部	厚	漆器破片	211Na13
92	埴生部	厚	漆器	211Na11

No.	種別	層幅	現存	出土位置
93	土師器	中	漆器	211Na11
94	土師器	中	口: 1/4	411Na20
95	土師器	中	1/4 - 1/3	411-42

5. 付編 前橋城車橋門丸馬出遺構の火山灰分析報告

株式会社 火山灰考古学研究所
早田 勉

1. はじめに

関東平野北西部に位置する前橋市域とその周辺に分布する後期更新世以降の地層や土壌の中には、赤城、横名、浅間などの火山に由来するテフラ(火山碎屑物、いわゆる火山灰)が数多く分布している。テフラの中には、すでに層位や噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、それらとの層位関係を明らかにすることで、遺構や遺物包含層の層位や年代に関する資料を得ることが可能となっている。

前橋城車橋門丸馬出遺構の発掘調査においても層位や年代が不明な土層が検出されたことから、地質調査を行って土層の層序やテフラの層相に関する記載を行うとともに、採取された試料についてテフラ検出分析を実施して、土層の層位や年代に関する資料を得ることになった。調査分析の対象となった地点は、基本土層断面(深掘トレンチ)および堀Dセクションの2地点である。

2. 土層の層序

(1) 基本土層断面

基本土層断面では、下位より砂混じり灰色泥層(層厚 20cm 以上)、灰色泥層(層厚 7cm)、灰白色輕石層(層厚 4cm、輕石の最大径 7mm、石質岩片の最大径 2mm)、砂混じり灰褐色泥層(層厚 12cm)、若干色調が暗い灰褐色腐殖質泥層(層厚 5cm)が認められる(図1)。最上位の腐殖質泥層は、ところによってはより暗色で、暗褐色を呈する部分もある。また、この土層の上面には、小規模なクラックが認められる。このクラックは、乾裂の可能性がある。

その上位には、さらに下位より灰白色粘土層(層厚 1cm)、桃白色粘土層(層厚 1cm)、成層したテフラ層(層厚 48.8cm)、淘汰の良い灰色砂層(層厚 1cm)、淘汰の良い黄灰色砂層(層厚 7cm)、凝灰質黄白色シルト層(層厚 11cm)が認められる。

これらのうち、成層したテフラ層は、下位より粗粒の白色軽石を含む灰色風化軽石層(層厚 22cm、軽石の最大径 12mm、石質岩片の最大径 3mm)、黄白色細粒火山灰層(層厚 0.6cm)、灰色粗粒火山灰層(層厚 0.7cm)、緑がかかった黄色砂質細粒火山灰層(層厚 1cm)、かすかに成層した桃灰白色砂質細粒火山灰層(層厚 1cm)、白色細粒火山灰層(層厚 1.5cm)、かすかに成層した灰色粗粒火山灰層(層厚 0.7cm)、白色細粒火山灰層(層厚 0.3cm)、緑がかかった黄色細粒火山灰層(層厚 0.3cm)、かすかに成層した灰色粗粒火山灰層(層厚 2cm)、白色細粒火山灰層(層厚 0.2cm)、灰色粗粒火山灰層(層厚 0.3cm)、黄白色細粒火山灰層(層厚 0.2cm)、灰色粗粒火山灰層(層厚 1cm)、灰色細粒火山灰層(層厚 0.2cm)、灰色粗粒火山灰層(層厚 1.2cm)、黄白色細粒火山灰層(層厚 0.4cm)、灰色粗粒火山灰層(層厚 9cm)、黄色砂質細粒火山灰層(層厚 0.5cm)、白色細粒火山灰層(層厚 2cm)、灰色粗粒火山灰層(層厚 0.8cm)、黄色細粒火山灰層(層厚 0.2cm)、灰色粗粒火山灰層(層厚 0.7cm)、白色シルト質細粒火山灰層(層厚 4cm)からなる。

(2) 堀Dセクション

堀Dセクションでは、下位より赤みをおびた桃色砂礫ブロックを含む灰色岩屑なだれ堆積物(層厚 25cm 以上、礫の最大径 108mm)、礫を多く含む灰色砂質シルト層(層厚 19cm)、礫混じりで粗粒火山灰を多く含む灰色泥層(層厚 19cm、礫の最大径 18mm)、砂混じりで黄色がかかった灰色泥層(層厚 12cm)、灰色泥層(層厚 7cm)、白色軽石に富む灰色砂層(層厚 3cm 以上、軽石の最大径 7mm)が認められる(図2)。

3. テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

テフラ層およびテフラを含む可能性が考えられた土層から採取された7試料について、テフラ粒子の特徴を定性的に把握するために、テフラ検出分析を実施した。分析の手順は次の通りである。

1) 試料 8g について超音波洗浄により泥分を除去。

2) 80 °C で恒温乾燥。

3) 実体顕微鏡下で観察し、テフラ粒子の量や特徴を把握。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。基本上層断面の試料4には、白色の軽石(最大径 5.7mm)が多く含まれている。また、その細粒物である白色の軽石型ガラスも比較的多い。灰色のガラス質岩片や中間型ガラスも含まれている。軽石はスponジ状や纖維束状に細かく発泡しており、後者には光沢が認められるものもある。重鉱物には斜方輝石や单斜輝石が多い。

試料3には、白色の軽石(最大径 3.9mm)が少量含まれている。その細粒物である白色や無色透明の軽石型ガラスも比較的多く認められる。軽石はスponジ状や纖維束状に細かく発泡しており、後者には光沢が認められるものもある。全体として斜長石の比率が高いが、重鉱物には斜方輝石や单斜輝石が目立つ。

試料2には白色や無色透明の軽石型ガラスが少量、試料1にはそれらが比較的多く含まれている。

堀Dセクションの試料3には、灰色軽石(最大径 2.1mm)やその細粒物である灰色の軽石型ガラスが少量含まれている。全体として暗灰色や黒灰色の岩片が多いが、重鉱物として斜方輝石や单斜輝石が認められる。試料2には、軽石や火山ガラスはほとんど認められないものの、斜方輝石や单斜輝石が多く含まれている。試料1には、基本土層の試料4と同じように、白色軽石(最大径 4.2mm)が多く含まれている。また、その細粒物である白色の軽石型ガラスも比較的多く、灰色のガラス質岩片や中間型ガラスも含まれている。軽石はスponジ状や纖維束状に細かく発泡しており、後者には光沢が認められるものもある。重鉱物には斜方輝石や单斜輝石が多い。

4. 考察

基本土層断面で認められたテフラ層のうち、成層した厚いテフラ層（試料3）は、層相、軽石や火山ガラスの特徴、含まれる鉱物の組み合わせなどから、約1.3～1.4万年前^{*)}に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石（As-YP、新井、1962、町田・新井、1992）に同定される。

As-YPの下位の灰白色軽石層については、As-YPの下位にあることや、含まれる軽石の岩相、塊状の火山ガラスに富むこと、さらに鉱物の組み合わせなどから、浅間大窪沢第1軽石（As-Ok1、約1.7万年前^{*)}、中沢ほか、1984、早田、1996）および浅間大窪沢第2軽石（As-Ok2、約1.6万年前^{*)}、中沢ほか、1984、早田、1996）からなる大窪沢テフラ群（As-Ok Group）の一部と考えられる。テフラの分布軸の方向を考慮すると、前者の可能性がより高いように思われる。したがって、同じような層位にあって、同様の岩相の軽石を含む本Dセクションの試料1のテフラについても、As-Ok1と考えられよう。

本Dセクションで最下位に認められた岩屑なだれ堆積物は、その層位や層相などを合わせると、前橋泥流堆積物（新井、1967、1971）と考えられる。その上位に濃集した粗粒火山灰（試料2）は、斜方輝石や单斜輝石に富むことから、1.9～2.4万年前^{*)}に浅間火山から噴出した浅間板鼻褐色軽石群（As-BP Group、新井、1962、早田、1996、未公表資料）の上部に由来する可能性が高いと考えられる。

5.まとめ

前橋城下橋門丸馬出造構の発掘調査において、地質調査とテフラ検出分析を行った。その結果、下位より前橋泥流堆積物、浅間板鼻褐色軽石群（As-BP Group、約1.9～2.4万年前^{*)}）の一部（上部）、浅間大窪沢テフラ群（As-Ok Group、約1.6～1.7万年前^{*)}）、浅間板鼻黄色軽石（As-YP、約1.3～1.4万年前^{*)}）を認めることができた。

^{*)} 放射性炭素(¹⁴C)年代、As-YPの校正年代については、約1.5～1.65万年前と考えられている（町田・新井、2003）。

文献

- 新井房夫（1962）関東盆地北西部地域の第四紀年輪、群馬大学紀要自然科学編、10, p.1-79。
 新井房夫（1967）前橋泥流の噴出年代と岩宿Ⅰ文化層、地質科学、21, p.46。
 新井房夫（1971）前橋市の地形・地質、前橋市史、1, p.8-66。
 町田 淳・新井房夫（1992）火山灰アトラス、東京大学出版社、276p。
 町田 淳・新井房夫（2003）新編火山灰アトラス、東京大学出版会、336p。
 中沢英俊・新井房夫・遠藤邦彦（1984）浅間火山、黒姫～前掛野のテフラ層序、日本第四紀学会講演要旨集、no.14, p.69-70。
 早田 勉（1996）関東地方～東北地方南部の示標テフラの諸特徴～とくに御岳第1テフラより上位のテフラについて～、名古屋大学加速器質量分析計業績報告書、7, p.256-267。

表1 テフラ検出分析結果

地点名	試料	軽石・スコリア			火山ガラス		
		量	色調	最大径	量	形態	色調
基本土層断面	1				**	pm	wh,cl
	2				*	pm	wh,cl
	3	**	wh	3.9	**	pm	wh,cl
	4	***	wh	5.7	**	pm,md	wh,cl,gr
堀Dセクション	1	***	wh	4.2	**	pm,md	wh,cl,gr
	2						
	3	*	gr	2.1	*	pm	gr

****:とくに多い、***:多い、**:中程度、*:少ない、最大径の単位は、mm。

wh:白色、gr:灰色、cl:無色透明

bw:バブル型、md:中間型、pm:軽石型。

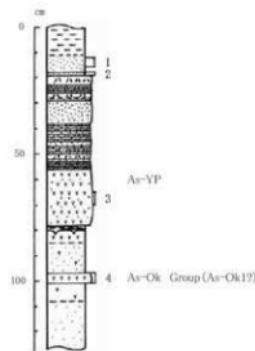


図1 基本土壤断面の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

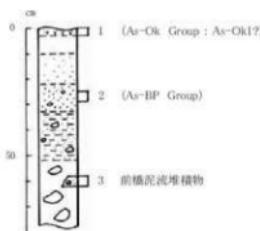
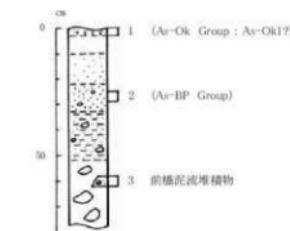


図2 堀Dセクションの土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

凡例



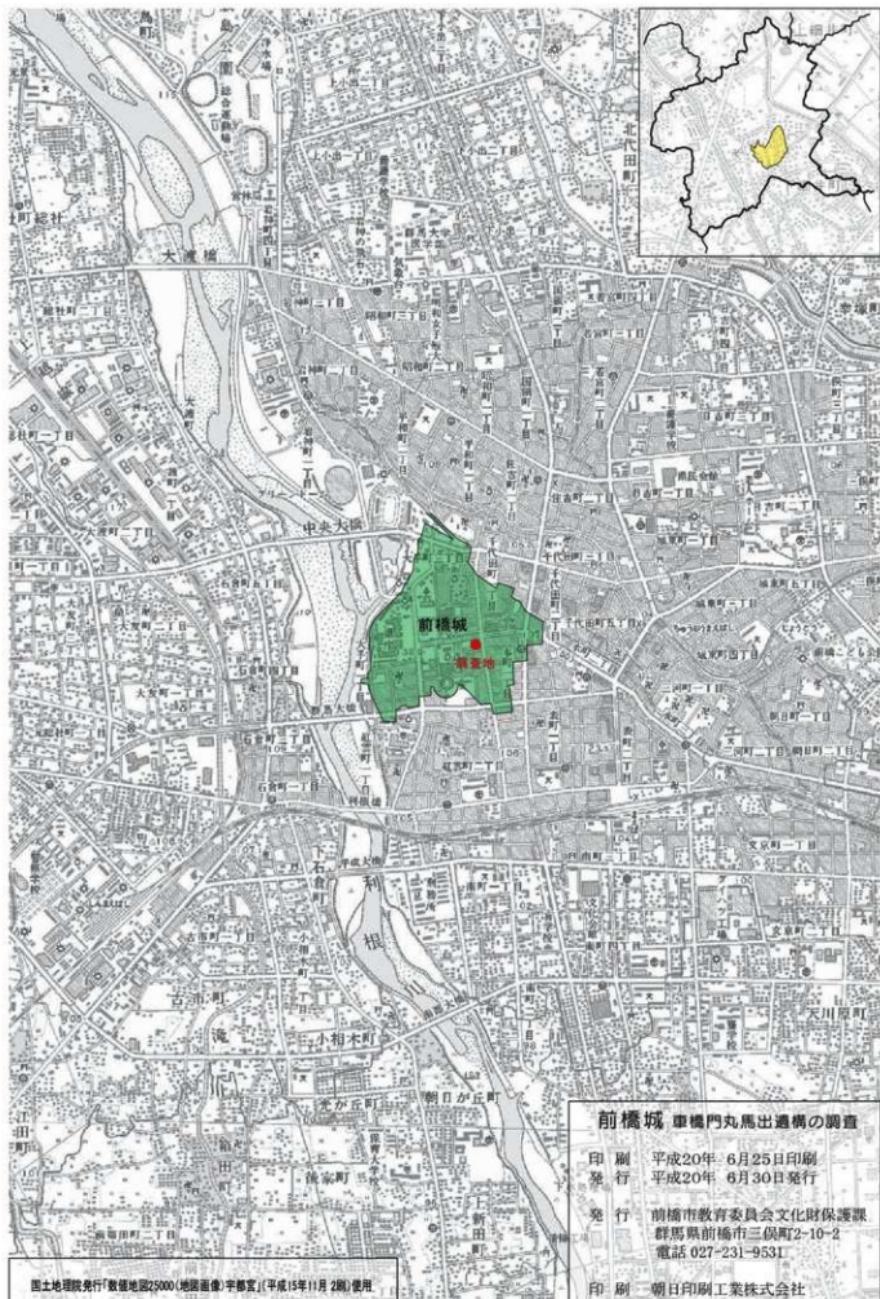
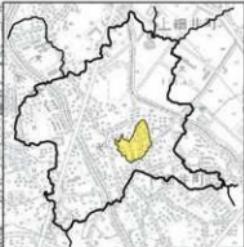
- ・ 軽石
- 粗粒火山灰
- △△ 細粒火山灰
- 砂
- シルト
- 泥
- 黏土
- 前構

発掘調査報告書抄録

ふりがな	まえばしょく くるおしまんまるうまだいこう
書名	前構城 単体門丸馬出遺構の調査
副書名	(仮称)レクセルマンション前構建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編著者名	梅澤克典・笠原仁史
巻次	一
シリーズ名	一
シリーズ番号	一
編集機関	前橋市教育委員会 管理部文化財保護課
所在地	〒371-0018 前橋市三保町二丁目10-2 TEL 027-231-9531
発行年月日	西暦 2008年 6月30日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	度数			
前構城	前橋市大手町	10201	191H42	36° 23' 14"	139° 04' 05"	2008.02.25	1,300 m ²
車橋門	二丁目					2008.03.28	マンション建設
丸馬出遺構	9番地18-19・24						

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
前構城	集落	平安	住居 土坑	4軒 1基	須恵器、土師器 須恵器
車橋門丸馬出遺構	城	近世・近代	塀 井戸 溝	1条 7基 1条	陶磁器、かっぽけ、瓦 素焼土器、瓦 陶磁器
		現代	井戸 堅穴状遺構 埋設木構	1基 1基	障子振り?
		時期不明	土坑 ピット	2基 4基	焼結陶器、コンクリート 木構
要約	本遺跡は、前構城約120年前(幕末)の砂礫に描かれている車橋門丸馬出の範囲にある。調査の結果、絵図に描かれたものとほぼ一致するように確認されたが、土器は後後の削平により確認することはできなかった。				



前橋城 車橋門丸馬出遺構の調査

印 刷 行 平成20年 6月25日印刷
平成20年 6月30日発行

発 行 前橋市教育委員会文化財保護課
群馬県前橋市三保町2-10-2
電話 027-231-9531

印 刷 朝日印刷工業株式会社